

NPO法人School Voice Project

2023年度事業報告書



〒103-0004 東京都中央区東日本橋二丁目28番4号日本橋CETビル2階
MAIL info@school-voice-pj.org | WEB <https://school-voice-pj.org>

- 2023年4月1日～2024年3月31日 -

Vision / Mision

子どもも大人もしあわせで、自らの力を実感できる、民主的でインクルーシブな学校・社会
— 学校現場の声を「見える化」し、対話の文化をつくる —

NPO法人School Voice Project(以下SVP)は、学校で働く教職員のエンパワメント(=変えていける実感の醸成)が、子どもたちのエンパワメントにつながるという信念のもと、山積する学校現場の課題を教職員の声の力で変えていくプラットフォームとして活動しています。

具体的には、1.)学校現場の声を「見える化」するWEBアンケートサイトとWEBメディアの運営、2.)政策提言・ロビイング活動、3.)教職員コミュニティの構築(オンラインコミュニティ運営)、4.)イベント企画等を実施しています。

● 2023年度事業報告のハイライト

- WEBアンケートサイト「フキダシ」の登録者が2,000人超え！
- WEBメディア「メガホン」の月間PVが約2.9万まで成長。
- オンラインコミュニティ「エンタク」を教職員以外にもオープンに:171名が参加。
- クラウドファンディングを実施し、およそ50万円の寄付が集まる。
- 夏に北海道で対話合宿を、冬に東京で対面理事会・対面イベントを開催。
- 8月に韓国、1月にデンマークへの教育視察ツアーを実施。
- 政策提言活動でも記者会見を計4回実施。多数のメディアに掲載。

● 1年間の主な動き

2024年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体	各WEBサイト改修 相乗効果UPのための見直し・改善		●対話合宿@北軽井沢		●対話合宿@北軽井沢		●対話合宿@北軽井沢		●対面イベント@大阪			
	●対面イベント@東海/東北		●対面イベント@東海/東北		●対面イベント@東海/東北		●対面イベント@東海/東北		●対面理事会@大阪			
事業	フキダシ 月1~2本程度を constants に実施											
	メガホン アンケート結果記事・インタビュー記事・イベントレポートなどを適宜UP (月*本程度)											
	コミュニティ構築 (エンタク)											
	政策提言・ロビイング 国会議員・文科省・教育委員会等との面談・対話を適宜実施											
	●記者会見 (教員不足)	●記者会見 (教員不足)	●記者会見 (教員不足)	●記者会見 (教員不足)	●記者会見 (教員不足)	●記者会見 (教員不足)	●記者会見 (教員不足)	●記者会見 (教員不足)	●記者会見 (教員不足)	●記者会見 (教員不足)	●記者会見 (教員不足)	●記者会見 (教員不足)
	●記者会見 (新年度準備)	●記者会見 (新年度準備)	●記者会見 (新年度準備)	●記者会見 (新年度準備)	●記者会見 (新年度準備)	●記者会見 (新年度準備)	●記者会見 (新年度準備)	●記者会見 (新年度準備)	●記者会見 (新年度準備)	●記者会見 (新年度準備)	●記者会見 (新年度準備)	●記者会見 (新年度準備)
	●ICT提言書手交	●ICT提言書手交	●ICT提言書手交	●ICT提言書手交	●ICT提言書手交	●ICT提言書手交	●ICT提言書手交	●ICT提言書手交	●ICT提言書手交	●ICT提言書手交	●ICT提言書手交	●ICT提言書手交
PJ	インクルPJ ソーシャルジャスティス基金助成事業 (毎月1回程度のプラットフォームmtg、調査)											
	●PF団体顔合わせ	●PF団体顔合わせ	●PF団体顔合わせ	●PF団体顔合わせ	●PF団体顔合わせ	●PF団体顔合わせ	●PF団体顔合わせ	●PF団体顔合わせ	●PF団体顔合わせ	●PF団体顔合わせ	●PF団体顔合わせ	●PF団体顔合わせ
									●インクルPJ クラウドファンディング → 3月末まで			●共同提言完成
									●書籍出版に向けた準備開始			

● 事業ごとの報告

教職員WEBアンケートサイト・WEBメディア運営事業

→ 教職員を対象としたWEBアンケートサイト「フキダシ」運営

インターネット上で、教職員に向けたアンケートを毎月1本程度、継続的に実施し、学校教育をめぐるさまざまなトピックについて、現職教職員の意見や思いを収集しました。



※こちらの画像は、2023年度にフキダシで実施したアンケート一覧です。

<DATA>

- ・フキダシユーザー数(2024年3月31日時点): 2,052名
- ・ユーザーの増加数(2023年4月1日~2024年3月31日): 457名
- ・アンケート実施数(2023年4月1日~2024年3月31日): 20本
- ・アンケート総回答数(2023年4月1日~2024年3月31日): 1412件
※Googleフォームのものを合わせると3,478件
- ・3月時点の月間PV: 2,109PV

<成果と課題>

- ・戦略的に、政策提言・ロビイングと結びつくアンケートを実施し、記者会見や手交等に結びつけることができました(年度始めの超過勤務、スクールソーシャルワーカー、持ちコマ数、教員不足など)。
- ・時事的なトピック(プールの水道代賠償、奈良教育大学の"不適切指導"、大阪万博など)についてのアンケートを実施することで、メディア掲載を実現し、教育関係者への問題提起をすることができました。

・PRtimesにて、アンケート結果をプレスリリースできるようになり、WEBメディアに転載されるなどの効果が出ています。

・「みんなに聞きたいこと」に返信ができるように改修を行いました。ただその後それほど活性化はしていない状況であり、今後どのようにしていくべきかは検討が必要です。

・人的資源の問題でアンケートの実施本数は減らしたものの、その分一つひとつのアンケートの広報を丁寧に行うようになりました。総回答数は目標は下回ったものの、ほぼ昨年度水準を維持できています。

・ユーザー登録者数は、じわじわと伸び、年度末までの目標(2,000人)を達成しました。

・フキダシのサイト自体の閲覧数は長期的な傾向としてはじわじわと伸びているものの、最も低かった8月で1,691PV、最も高かった2月で8,507PVと、目標の1万PVには届かず、まだ月毎のぶれ幅も大きい状況にあります。

・運営に関しては、2023年度は事務局が全面的に引き取るかたちになりましたが、持続可能性や多視点から内容を検討するという意味では、チームとして体制を組んで行っていく必要があります、今後の課題と言えます。

(2023年度の計画は以下の通りでした)

インターネット上で、教職員に向けたアンケートを毎月1本以上、継続的に実施し、学校教育をめぐるさまざまなトピックについて、現職教職員の意見や思いを収集していきます。今年度からは、これまで以上に、政策提言・ロビイング活動に直接的に生かすことを前提としてアンケートを実施していくことを重視します。

事業Mission / Vision

- ・全国の学校現場で奮闘する教職員の抱えている“見えない思い”を、“届く声”に変換すること。
- ・より多くの教職員に「声が見える化」できるツールとして認知・活用されること。

事業のSVP内での役割

- ・全国の現職教職員のプラットフォームが構築されることで、政策提言・ロビイング活動の武器となる
- ・アンケート結果まとめが「メガホン」のコンテンツになる

今年度のKPI

- ・フキダシユーザー数(2024年3月31日時点): 2,000名
- ・ユーザーの増加数(2023年4月1日~2024年3月31日): 400名
- ・アンケート実施数(2023年4月1日~2024年3月31日): 15本以上
- ・アンケート総回答数(2023年4月1日~2024年3月31日): 1500件以上(平均で100件以上)
- ・3月時点の月間PV: 1万PV

→ 学校をよくするWEBメディア「メガホン」運営

オウンドメディア「メガホン」を運営。「フキダシ」でとったアンケートを公開するとともに、独自コンテンツとして学校現場を元気にする情報を公開してきました。



※こちらに掲載した画像は、2023年度にメガホンに掲載した記事のアイキャッチ一覧です。この他、ラジオ(音声番

組)、動画も掲載しています。

<DATA>

- ・公開コンテンツ総数: 記事130本 | ラジオ30本 | 動画4本
- ・3月時点の月間PV: 29,228PV

<成果と課題>

- ・記事の内容、質に関して、教育関係者から一定の評価を得ることができています。
- ・年度計画で言及していた「理事等による寄稿記事」は3本に留まり、大々的には展開できませんでした。
- ・メガホンのサイト自体の閲覧数は一部のSEO記事が機能していることにより、長期的な傾向としてはじわじわと伸びているものの、目標であった3万PVには少し届いておらず、改善が必要です。
- ・当初想定していた「家事をしながら、移動しながらアクセスできるコンテンツ」としては、ラジオは理事による発信が増えているものの視聴回数に課題があるのが現状です。動画についてはほとんど取り組むことができず、改善が必要です。
- ・記事、ラジオ、動画すべてにおいて、目標としていた公開数を下回り、コンテンツの更新頻度に課題を抱えています。
- ・現状、SEO記事からの流入による1回のみ閲覧がほとんどで、繰り返し訪問してもらえるサイトにはなっていない＝エンゲージメントは低い点が課題です。
- ・「フキダシ」や「エンタク」への遷移も導線がうまく機能していないため改善が必要です。

(2023年度の計画は以下の通りでした)

「フキダシ」でとったアンケートを公開するとともに、独自コンテンツとして学校現場を元気にする情報、学校教育をめぐる情報の解説、SVPの活動のプロセスや実績等を発信していきます。記事執筆の外注の本数を減らす分、理事等による寄稿記事を増やしていきます。

事業Mission / Vision

- ・教職員の方にとって、共感でき、元気になり、「やってみよう」「またがんばろう」と思えるメディア
- ・学校の外の方にとって、共感でき、発見があり、学校や教職員を応援したくなるメディア
- ・「民主的でインクルーシブな教室や学校のあり方」を伝えていくメディア

SVP内での事業の役割

- ・中心的な発信媒体(最も見られるメディア)
- ・広告収入を得られる媒体(収入源となるメディア)
- ・「メガホン」からの遷移により「フキダシ」のユーザー増加、「エンタク」のメンバー増加に貢献する

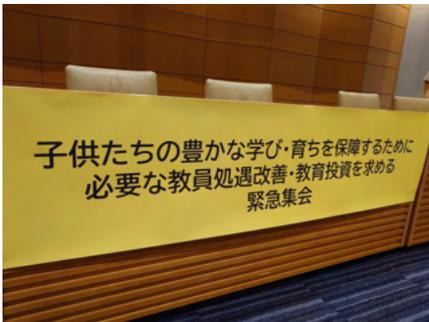
今年度のKPI

- ・公開記事数: 36本以上(毎月アンケート結果まとめ1本、インタビュー等2本を最低頻度とする)
- ・公開ラジオ数: 48本以上(月4本)
- ・公開動画数: 6本(隔月1本) ※ラジオの音声UPを除く
- ・3月時点の月間PV: 3万PV

政策提言・ロビイング事業

→ 現場発の政策提言/ロビイング活動の実施

WEBアンケート等で集まった現場教職員の声を踏まえ、記者会見等を行なってメディアに向けた発信をしたり、政党や議員、文科省・教育委員会との意見交換/交渉を実施したりしてきました。



<活動の記録>

- 記者会見
 - 4月 | 新年度準備を十分に！調査結果公表(オンライン)
 - 5月 | 教員不足をなくそう！調査結果公表(文科省記者クラブ)
 - 5月 | スクールソーシャルワーカーを増やそう！調査結果公表(文科省記者クラブ)
- 国会議員・地方議員との面談・対話
 - 4月 | 自民党文部科学部会 × 若手教員
 - 4月 | 萩生田光一議員(自民党)
 - 4月 | 中村裕之議員(自民党)
 - 10月 | 山田太郎議員面談(自民党)
 - 2月 | 山田太郎議員面談(自民党)
 - 3月 | 萩生田光一議員(自民党)、中村裕之議員(自民党)
- 文科省・教育委員会との面談・対話
 - 12月 | 横須賀市教委意見陳述
 - 2月 | 小田原市教委意見陳述
 - 3月 | 文科省・教員不足問題を中心に意見交換
- プレスリリース
 - 6月 | アンケート結果公開！「スクールソーシャルワーカーと教員向け緊急アンケート」
 - 8月 | アンケート結果公開！「給特法改革、どう思う？」

- 8月 | アンケート結果公開！「教育予算、優先的に使うべきはどこ？」
- 11月 | 教職員アンケート結果公開！「プールの水道代の賠償請求、あり？なし？」
- 2月 | 教職員アンケート結果公開！授業の持ちコマ数、週いくつが妥当？

- その他

- 5月 | 教員処遇改善・教育投資を求める緊急集会に参加(衆議院議員会館)
- 11月～3月 | 新年度準備を十分に！陳情アクション
- 【自治体別状況ダッシュボード】を完成、公開

<成果と課題>

・記者会見を計4回実施し、それぞれ一定程度のメディア露出を実現することができました。特に、新年度準備を十分にキャンペーンでは、NHKの全国放送で放映され、日本教育新聞でも一面トップで取り上げられるなど大きな成果がありました。

・政治家や教育行政関係者との面会が2022年度と比べると減ってしまいました。また、アドバイザーの助力で面会等は実施できているものの、SVP自体が団体単体として政治家や文科省・教育委員会の方に認知されているとは言えない現状もあります。ロビイング団体として認知され、さまざまな関係者の方々と対話ができる関係性を築くことができるよう努力を続ける必要があります。

・面会でできている政治家が与党に偏ってしまっている点は中立性の観点から課題です。次年度は野党とのネットワークもより重視して動く必要があります。

・政策提言書については、目標は5本でしたが(1.新年度準備を十分に / 2. SSW増員 / 3. ICT環境)の3本のみ完成させることができました。公式WEBサイトにも公開しているが、目立たないため、今後発信の方法には検討の余地があります。

・新年度準備を十分にキャンペーンにおいては、神奈川県すべての自治体と名古屋市、練馬区の教育委員会に陳情を送付するアクションを行いました。陳情提出者が当該自治体の住民でないと取り扱ってもらえないケースや、返答が返ってこない自治体もあり、今後は実施方法の改善が必要です。

・体制としては、武田・小林の2名の理事が中心に動いているものの、チーム化していく必要性を感じています。

(2023年度の計画は以下の通りでした)

WEBアンケート等で集まった現場教職員の声を踏まえ、記者会見等を行なってメディアに向けた発信をしたり、政党や議員、文科省・教育委員会との意見交換/交渉を実施したりしていきます。

事業Mission / Vision

- ・学校現場の声を活かして制度や世論に影響与え、教職員の“変えていける実感”を醸成する。

他事業との連携・相互影響

- ・メディア露出機会の増加や、事業の公益性の認知向上などにより「フキダシ」のユーザー、「エンタク」のメンバー、寄付者の増加に貢献する

今年度のKPI

- ・政策提言書を5本完成させ、公式Webサイトやメガホンにて公開(1.新年度準備を十分に / 2. SSW増員 / 3. インクルーシブ教育推進 / 4. ICT環境 / 5. 若手・初任者支援)
- ・新年度準備を十分にキャンペーンに関し、10以上の教育委員会に陳情 or 請願を行う

教職員コミュニティ構築事業

→ オンラインコミュニティ「エンタク」の運営

2023年3月に、有料・紹介制・現職教職員もしくは元教職員限定のオンラインコミュニティを3月にオープン。その後、理事やボランティアからなる「エンタクチーム」が発足し、イベントの開催やスレッドでのコミュニケーションの盛り上げなどを行ってきました。12月からは「現職教職員もしくは元教職員限定」という縛りを外し、また現職教職員に関しては「紹介制」という縛りを外して、入会対象者を拡大。その後クラウドファンディングを通して認知拡大を図ってきました。

<活動の記録>

- 「エンタクチーム」の動き
 - 定例イベントの企画運営を担う
(はじめまして&あらためましてミーティング、メンバーの実践シェア会)
 - 月1回のミーティングを実施し、「エンタク」のよりよい運営に向けて議論
- 入会対象者拡大に向けた取り組み
 - 11月に、複数回の投稿での説明及びオンライン双方向での説明会を実施
(既存メンバーの不安をなるべく払拭し、理解・納得のうえで移行できるように考慮)
- 内部限定イベント
 - その他、メンバーによる“自主企画”が少しずつ行われるようになってきている
- エンタク内部限定イベント
はじめまして&あらためましてミーティングを月1回、メンバーの実践シェア会を月1回、定例開催している。
以下のSVP主催イベントの他、自主企画の開催も少しずつ増えてきている。
 - 4月8日 | 4月のはじめまして&あらためましてMEETING(13名)
 - 4月14日 | 2023年度、地元でSVPと対面・ローカルイベントつくりませんか？(作戦会議)(8名)
 - 4月15日 | 実践シェア会(たーぼうさん) | 生徒指導部から生徒支援部へ～ぬくもりを学校の真ん中に(12名)
 - 5月13日 | 5月のはじめまして&あらためましてMEETING(4名)
 - 5月21日 | 実践シェア会(ほっしーさん) | いま必要な包括的性教育(14名)
 - 6月24日 | 実践シェア会(矢野良太さん) | 特別支援学校の実践とインクルーシブ教育に向けて思うこと(12名)
 - 7月12日 | 7月のはじめまして&あらためましてMEETING(6名)
 - 7月24日 | 【1回目】文科省の槍澤さんと「個別最適な学び」について喋る会(8名)
 - 7月29日 | 実践シェア会 藤井智子さん(コトさん) | 先生を2回も辞めて、なんで3回目やってるの？(9名)
 - 7月31日 | 【2回目】文科省の槍澤さんと「個別最適な学び」について喋る会(7名)
 - 8月19日 | 8月のはじめまして&あらためましてMEETING(9名)
 - 9月9日 | 9月のはじめまして&あらためましてMEETING(6名)
 - 9月17日 | 【オンライン報告会】教育視察ツアーin韓国(57名)
 - 9月20日 | 【メガホンの取材を公開】社会教育をテーマに吉田理沙さんをインタビュー！(7名)
 - 10月21日 | 10月のはじめまして&あらためましてMEETING(7名)
 - 10月28日 | 実践シェア会・田中亨さん(とおるさん) | 不登校・非行の家族の裏側にある景色(12名)

- 11月11日 | 実践シェア会・永山勝幸さん | 『安心・安全！最優先！！』子どもと共に創るみんながたのしい学校～自己選択・自己決定を子どもに委ねるスタートカリキュラム・マネジメント～(13名)
- 11月18日 | 11月のはじめまして&あらためましてMEETING(7名)
- 11月28日 | 実践シェア会・榎原佳江さん(えのきさん)ver | 「公共」の中の主権者教育～おとなは何を見て選挙で選んでいるの？～(17名)
- 12月9日 | 12月のはじめまして&あらためましてMEETING(6名)
- 12月10日 | デンマークと教育と社会から学ぼう！【お正月実施のデンマーク教育ツアーの事前学習会をエンタク皆さんにも公開！】(11名)
- 12月13日～31日 | 【歳末企画】2023年の振り返り投稿を書こう！(22名)
- 12月16日 | 【メガホンの取材を公開】特別支援コーディネーターとして生徒支援体制の改革を進める高校教員の東さんをインタビュー！(11名)
- 12月28日 | 【歳末企画】2023年振り返りイベント&忘年会@オンライン(13名)
- 1月1日～14日 | 【新年企画】2024年の抱負ブログを書こう！(16名)
- 1月13日 | 1月のはじめまして&あらためましてMEETING(14名)
- 1月30日 | 【緊急開催！】どうなってるの？どうしていけば？みんなで知って考えたい！学習指導要領を取り巻くギモン！(32名)
- 2月10日 | 2月のはじめまして&あらためましてMEETING(15名)
- 2月15日 | EDUTRIPデンマークおしゃべり報告会(33名)
- 2月23日～3月16日 | “不登校”をテーマにブログを書いてみませんか？(14名)
- 3月9日 | 3月のはじめまして&あらためましてMEETING(14名)
- 3月13日 | 【シリーズ】学校の変え方／変わり方を本気で考える会 vol.1(33名)

- 対面イベント

8月3日 | SVP／エンタクメンバー・夏の対話合宿2023@北海道(23名)

2月2日 | エンタク／School Voice Project大阪オフ会(交流会)(22名)

- クラウドファンディング

- 12月～3月 | エンタクへの流入経路の整備(WEBサイトの改修等)等のための資金調達と「エンタク」事態の認知拡大を目的にクラウドファンディングを実施

<DATA>

- ・メンバー数(2024年3月31日時点):171名
- ・メンバーの増加数(2023年4月1日～2024年3月31日):81名
- ・月間メンバー“熱量”平均(OSIROのシステムで計測可能):91.3

<成果と課題>

- ・紹介制かつ入会可能な立場に制限があったこともあり、なかなかメンバーが増えない時期が続きましたが、その点を整理したことで入会者が増え、それに伴って内部が活性化してきました。
- ・クラウドファンディングによって認知度が高まり、メンバー数が大きく増加しました。ただし、それでも目標であった200名には現時点で届いておらず、課題が残っています。
- ・エンタクのメンバーがフキダシでアンケートに答える、ロビイングに協力してくれるといった相乗効果は、まだ実感できる状況になっておらず、今後の課題です。
- ・月間メンバー熱量は、60～140の間を推移しており、12月以降は100を超えています。ただし、3月はまた下がっており、時期による変動が大きい状況があります。それ自体は一定仕方ないかと思いますが、平均200は目標として高すぎたにしても平均150程度は目指すべきかと考えています。

(2023年度の計画は以下の通りでした)

全国の教職員がつながりエンパワーし合うためのオンラインコミュニティ「エンタク」を運営し、チャット上でのコミュニケーションを活性化するとともに、オンラインイベントの開催を定期的に行います。

事業Mission / Vision

- ・教職員が思いを共有できる仲間を得、交流の中でエンパワメントが起きること。
- ・教職員が半径1m(教室や職場)を変えていく後押しになること。

他事業との連携・相互影響

- ・SVPの活動と理念に共感し、協力と参画をしてくれる仲間が「エンタク」が増えていくことで、「フキダシ」のアンケート回答数が増える、広報力が高まるなどの効果を生み出す
- ・マンスリーの会費によって安定的な財源を生み出す

今年度のKPI

- ・メンバー数(2024年3月31日時点):200名
- ・メンバーの増加数(2023年4月1日~2024年3月31日):120名
- ・月間メンバー“熱量”平均(OSIROのシステムで計測可能):200(現在およそ100)

ワークショップ・イベント事業

→ 主催イベントの開催

学校教育をめぐるさまざまなテーマについて発信するとともに、全国の教職員や学校教育に関心を寄せる市民が交流できるイベントを実施してきました。

<イベント開催の記録> ※はオンライン

- エンタク発・外部公開イベント(オンライン)
 - 1月21日 | エンタクメンバーの実践シェア会・山下さん | 試行錯誤の連続! チーズ作りに挑む子どもたち(30名)
 - 2月12日 | エンタクメンバーの実践シェア会 | 牧場は第2の教室~「酪農教育」で子どもたちは何を学んだか~(24名)
 - 2月20日 | エンタクメンバーの実践シェア会・新井さんver | 自由に学べる教室って?(34名)
 - 2月24日 | エンタクメンバーの実践シェア会・綾子さんver | スクールソーシャルワーカーって何屋さん?(24名)
 - 3月2日 | どうなってるの? 韓国の障害分野のインクルーシブ教育【教育視察ツアー事前学習会】(18名)
 - 3月2日 | エンタクメンバーの実践シェア会・のりこさんver | 防災を含む包括的学校安全を捉えた探究学習(15名)
 - 3月10日 | エンタクメンバーの実践シェア会・まなみんver | ユネスコスクールでのESD・SDGsを目指す総合学習(21名)

- 3月17日 | 【クラファン盛り上げイベント】公立小学校での「イェナプラン教育」の実践 | 日本イェナプラン教育協会共催(48名)
- 3月23日 | エンタクメンバーの実践シェア会・おがみさんver | 概念型探究にチャレンジ-歴史の授業で議論を喚起する問いは問えるのか(15名)
- 3月31日 | エンタクメンバーの実践シェア会・みおさんver | 地域と学校をつなぐ、地域コーディネーターの仕事から見えてくるもの(11名)
- School Voice Lab.
 - 6月29日 | 妹尾昌俊さんに聞こう！教員勤務実態調査から分かること-長時間勤務の解消はできるのか(25名)
 - 7月30日 | 議員・教育委員会関係者向けイベント「日本初！教育データダッシュボードを使ってみよう」(26名)
 - 10月31日 | 竹内延彦さんに聞こう！まちの教育ビジョンをみんなでつくり育てる挑戦(35名)
- その他公式イベント(オンライン)
 - 11月4日 | 【オンラインイベント】著者が来る、みんなで語る読書会 ~能澤英樹さん『先生2.0: 日本型「新」学校教育をつくる』~ (14名)
 - 1月31日 | 【オンライン報告会】EDUTRIP in デンマーク2024(73名)
 - ももちんの学級経営伴走ゼミ
 - 5月20日 | 「学級経営にも“型”がある!まずはここから始めよう」(8名)
 - 9月2日 | 「安定している学級に共通していること」(13名)
 - 10月28日 | 「いじめってなくせるの?」(7名)
 - 2月3日 | 「ゴール間近に大事にするものって?」(7名)
 - ももちんの学級経営伴走ゼミ
 - 3月29日 | 第0回~4月の出会いをワクワクに! ~ (5名)
- 対面イベント
 - 6月3日 | SVP全国キャラバンin大阪(箕面) | プロジェクトアドベンチャー体験&対話(19名)
 - 8月11日~14日 | 教育視察ツアー in 韓国(19名)
 - 12月3日 | 【東京開催】子どもも大人も“ウェルビーイング”な学校へ! ~新しい視点と仲間に出会う対面イベント~(60名)
 - 1月1日~8日 | EDUTRIP in デンマーク(19名)
 - 3月30日~31日 | 【東京開催 / 韓国のNPO・ピースモモ招聘ワークショップ!】“教えない平和教育”と“みんながみんなから学ぶファシリテーション”を体験する2日間(29名)

<成果と課題>

- ・2022年度定期開催していた「フキダシカフェ」については、運営を担っていた有志メンバーの都合等により開催できませんでした。
- ・School Voice Lab.は、外部からゲストを招き3回実施することができたが、当初予定(隔月開催)と比べると頻度が確保できず、課題が残っています。半年間でパッケージ開催にするなどの工夫が必要です。
- ・「エンタク」が活性化したことによって、オンラインイベントはかなり数が増え、内部イベントとして始まったものが外部公開されるケースも増えてきました。
- ・対話合宿には23名が参加し、1泊2日でたっぷり対話を行い、懇親を深めることができました。

(2023年度の計画は以下の通りでした)

学校教育をめぐるさまざまなテーマについて発信するとともに、全国の教職員や学校教育に関心を寄せる市民が交流し学ぶことができるイベントを実施していきます。

対面・ローカルイベント

12月には対面理事会と合わせて、リアルイベントを大阪で開催し、インクルーシブ教育をテーマに*人の集客を目指したい。

→ 理事や「エンタク」メンバーによる多様な企画をフレキシブルに実施

SVPIに集う人たちの問題意識やニーズ、興味関心を出発点にして、企画を立案、実施していきます。同時に、スムーズな運営・開催のために、これらの持ち込み企画をSVPが主催・共催するに当たってのガイドラインを策定します。

→ 議員向け勉強会

不定期で、多様なテーマで勉強会を実施していきます。参加者をFacebookグループに招待することで、連携・情報交換できる議員の方を面化し、徐々に増やしていきます。

事業Mission / Vision

・教職員はもちろん、すべての市民が、学校教育に対して当事者意識を持ち、それを強めることができる機会をつくり出すこと。

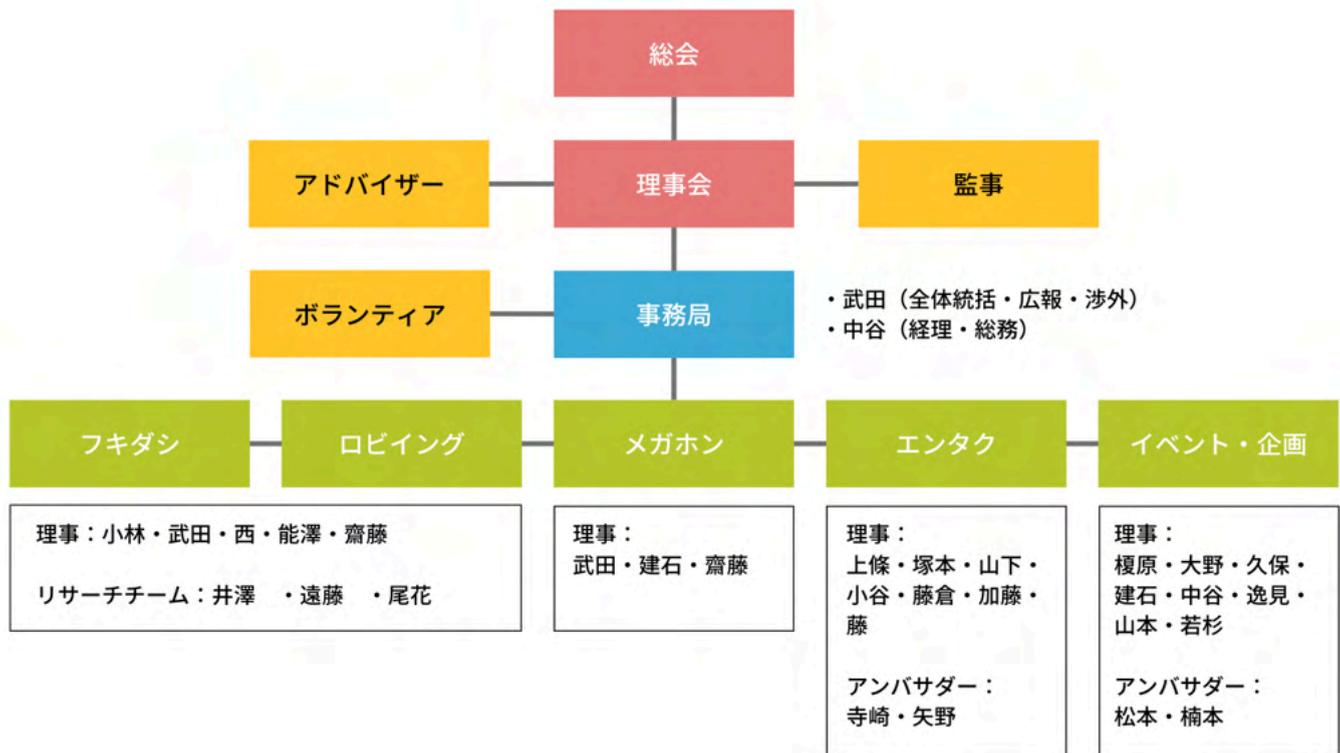
他事業との連携・相互影響

・企画を通して団体の認知度を高め、共感者を増やすことで、「フキダシ」のユーザー、「エンタク」のメンバー、寄付者の増加に貢献する
・イベント等の企画で収益を出し、それを団体活動費として活かす

今年度のKPI

・オンラインイベント参加者数:500名以上
・対面イベント参加者数:150名以上

組織体制について



→ 事務局体制について

事業規模が2022年度よりも縮小したため、非常勤・有給の事務局メンバーを2名に縮小し、事務局が担う業務も縮小しました。その分、理事等が具体的な実務に参画し、ボランティアベースの活動の範囲を広げてきました。上記の組織図の通り、事業ごとのチームに分かれ、その運営体制を今年度を通じて構築してきました（目標、メンバー、チームリーダーを明確にし、ミーティングを定期化するなど）。それにより、理事やメンバーの主体的な参画度合いは高まっています。ただし、その度合いはチームより濃淡がある状況になっており、改善を要する部分もあります。

→ ガバナンス・コンプライアンスの強化

求められる社会的責任を果たすため、また寄付を得ながら活動する法人として信頼に足る体制を確立するため、ガバナンス（健全な組織運営を行う上で必要な管理体制の構築）と、コンプライアンス（法令遵守）の現況をチェックし、改善に向けた計画を策定・実行してきました。来年度には「グッドガバナンス認証」を取得すべく、取得要件の整備を行っています。

<策定した規程>事務局規程 / 倫理規定 / 理事の職務権限に関する規程 / 利益相反管理規定 / 経理規定 / 旅費規定 / 文書管理規程 / 事業チーム運営規程

→ 財政基盤等について

昨年度整備した寄付ページ、「エンタク」の仕組みなどを活かし、積極的にマンスリーサポーター及び「エンタク」メンバーの募集・呼びかけを行い、安定的な財政基盤の拡大を図ってきました。ただし、目標であった、マンスリーサポーター200名、エンタクメンバー200名という数値はいずれも大きく下回っています。（マンスリーサポーター45名、エンタクメンバー171名）

また、クラウドファンディングについては夏に実施できずに冬にずれ込み、また目標も50万に下げました。クラウドファンディングを実施するに耐えうる、組織的な体力が低迷していることは大きな課題と言えます。教育視察ツアーを年度内に2回実施し、その収益をその他の活動のための費用に充てました。

→ 意思決定体制について

設立総会で承認された方針をもとに運営することができました。理事会については、3ヶ月に1回、定款上の理事会を行い、そこで事業の報告と方針等について議論し、決定してきました。それ以外の月にも理事メンバーで集まっての交流・意見交換会を実施しています。

一方で、アドバイザーの皆さんとは、事務局が個別に連絡を取り、ご協力を仰いだり相談に乗っていただいたりしているものの、すべての方に呼びかけるかたちでのミーティングを今年度も設定することができなかったことは大きな反省点です。

番外編：株式会社Yogiboとのタイアップ企画「#学校の居心地プロジェクト」

子どもも大人も居心地のよい学校づくりを進めるため、現場と連携した試行実験や情報発信を行う「#学校の居心地プロジェクト」を株式会社Yogiboの協賛のもと、スタートしました。このプロジェクトの実施によって、学校における「物的・空間的環境」「居心地」について考える機会を、検証校をはじめとする全国の学校現場に届けることを目指してきました。



実施した内容は以下の通りです。

1. 全国から公募した5つの学校のさまざま「まな場所(教室、職員室、廊下、図書室、保健室、相談室など)」にYogiboを設置。子どもたちや先生たちの、心や、学び、や、関係性にどんな影響を与えるのかを探りました。
2. 上記の検証結果や「(物理的・空間的な意味での)居心地」に特化した取材記事をWebメディア「メガホン」で随時発信し、学校運営に「居心地」という概念が浸透することを後押ししました。
3. 「学校の居心地/ウェルビーイング」をテーマとしたイベントを開催し、居心地のよい学校づくりの機運を盛り上げました。